

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE



vol. 46 2017年12月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203

nofenceinfo@gmail.com

<http://nofence.jp/>

INDEX

- 韓国民主化から北朝鮮民主化へ——金永煥氏講演会報告（小川晴久） 2
金民柱氏追悼（小川晴久） 5

本年もたいへんお世話になりました。
2018年もどうぞよろしくお願ひいたします。



新年の集会第1弾は、1月20日（土）、
金革^{キムヒョク}さん（『自由を盗んだ少年』著者）
をお招きする予定。詳細が決まり次第
お知らせします。



韓国民主化から北朝鮮民主化へ

——金永煥氏講演会報告——

代表 小川晴久

今年の北朝鮮人権侵害啓発週間のだ真ん中、去る12月14日(東京)と15日(大阪)、韓国から若いけれども大物の金永煥氏(54歳)をお招きして、表記の題の講演会を催すことができた。NO FENCEと北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会の共催であった。準備期間が1週間くらいしかない取り組みであったが、以下にご報告するようお願いを聞くことができたのは、とても幸いであった。急な要請にもかかわらず、来日してくださった講師の金永煥氏と、特に大阪講演会を開催してくださった守る会の山田文明代表に感謝申し上げたい。

第1部 自己紹介～北朝鮮民主化活動への転換

1982年、全斗煥時代にソウル大学入学 70年代の維新憲法時代にマルクス主義が活発化していたが、入学した当時は学生運動の領域ではマルクス主義が広がっていた。学生運動の領域では反共意識はなかった。

80年代に主体思想派誕生 1985年10月に「反帝民衆民主化運動のたいまつを持って民族解放の旗手として復活しよう」というパンフレットを作り、反米主義を前面に出した。「NL」=民族解放理論の出発であり、翌年1986年3月、NLPDR(民族解放民衆民主主義革命論)を前面に出した最初の学生運動組織であり、最初の「主体思想派学生組織」と呼ばれる「救国学生連盟」を結成した。

1986年11月安企部に逮捕され、激しい拷問を受ける 1988年12月刑執行停止で釈放されるが、翌年2月ふたたび地下組織の「反帝青年同盟」に加入する。

1989年7月北朝鮮の工作員から声をかけられ、1991年5月入北 東欧・ソ連が崩れ、中国は改革・開放路線を取っていたので、新たな社会主義について金日成や北朝鮮の学者たちと議論したくて、江華島に来た潜水艇で北朝鮮を訪問した。学者たちは党のテキストから外れまいとするだけで、宣伝員にすぎなかった。金日成とは2日間計6時間話をした。しかし話題は過去のことばかり。考え方が化石化していた。彼が創始したという主体思想についても何もわかっていなかった。17日間滞在した。

1992年3月、地下組織の民族民主革命党(民革党)を作り、中央委員長となる

1990年代半ば以降、大飢饉の中で脱北者が増え、亡命者が増える 当時運動圏



向かって左が金永煥氏

では安企部のやらせだとして、脱北者の証言を受けとめようとしなかった。

姜哲煥・安赫の手記を読み、衝撃を受ける 小学生まで強制労働。ノルマを達成できないと殴られる。強制収容所がこれほどひどいとは思わなかった。北朝鮮全体が強制収容所であることを知る。

ふたたび深い苦悩に陥る 韓国で革命運動に従事したのは、今いちばん苦しんでいる人たちは誰だと考えたからである。革命家を自負していて、その心が誠であるならば、これからは北朝鮮の民衆の自由と解放のために闘う道こそ革命家の使命であると考えた。

民革党幹部たちに手紙を書く 1997年7月、彼の発議で民革党を解散したと言っているのだから、この頃のことと思われる。以上のような方向転換を彼は地下組織の民革党の幹部たちに手紙に書いた。当時の民革党の幹部たちは衝撃を受け、混乱した。3分の1はショックを受けつつも同意した。3分の1は運動から身を引き、普通の市民になった。3分の1は拒否した。同意した人たちは、中朝国境で、国内で、北朝鮮民主化のために、ここ20年間活動をしている。

2012年3月末中国国家安全局に逮捕される 中国での活動はかなりの規模であったが、中国当局の弾圧で、今は活動が困難になっている。

第2部 北朝鮮の現状をどう見るか

北朝鮮の歴史は4期に分けられる

1. 60年代後半まで——一般の社会主義段階 既成の他の社会主義国と変わりはない。

2. 60年代後半から90年代初めまで——金日成の唯一思想独裁体制 金日成の一言で粛清されたり、強制収容所送りされる時代。朝鮮労働党は金日成の補助機関に格下げされた。



3. 90年代半ばから——社会主義崩壊期 93年～94年以後大飢饉. 餓死が続出する中, 移動の届け出制も, 配給制度も崩壊. 90年代半ばから公務員は賄賂を受け取ることが爆発的に増える. 無償教育, 無償医療も崩壊.

4. 金正恩時代(過去6年)——国家機構の「正常」化 過去20年いろいろ検討したが, 改革・開放しかないという結論に達した. 開放は経済制裁を受けているが, 改革は農業改革と市場改革で成果を上げている.

〈農業改革〉2010年金正恩が提起. 非効率な集団主義農法に代わり, 家族・個人請負制を始めている. 収穫の30%は国に納め, 70%は農民に. 年間480万トンから500万トンの生産ができている.

〈市場改革〉この6年間金正恩は一度も市場を抑制していない. 安心して市場に投資できるようになった. 今まで資本を保護するシステムはなかったが, それを作ろうとする動きが出ている. ある地域に高層ビルが40棟建てられたが, 国が資金を出したものは1棟もない.

北朝鮮はなぜ核開発を続けているのか 1998年以降19年間に韓国で逮捕された北の工作員は20名いるが, その中で南朝鮮革命化の指令を受けた者は一人もない. 北朝鮮では部と局では大きな差があるが, 対南連絡部が局に格下げされた. 今は国家と体制を守ることに集中している. 国家と体制を守る方法は3つある. 1) アメリカや韓国の善意を信じる. 2) お金を使って兵器の高度化を図る. 3) 核とミサイル開発で守る. 1)は自国を崩壊させようとしている敵であるから, それに依存はできない. 2)はそんな余裕はない. 結局3)しかない. 防衛的なものである.

以上が東京講演会の骨子である. 大阪講演会もほぼ同様.

感想

以上の内容で参加者が初めて聞く内容は、金正恩が経済政策で成果を上げているという指摘であったと思う。特に農業改革の家族請負制の導入で成果を上げているというくだりで、北朝鮮が実質的に改革・開放路線を歩みはじめているという指摘であった。当面簡単に崩れないという結論を伴って、彼は北朝鮮の現状を過大評価してもならず、過小評価してもならず、客観的につかむことを強調して、北朝鮮をどう見るかの第2部を始めた。意外な話を聞いたと感じた人が多かったと思う。

しかし、金永煥氏は北朝鮮の民主化に舵を切り替え、韓国でその先頭に立っている。自らを北朝鮮の人々の運命を変える革命家であると自己規定している。NO FENCEは北朝鮮の民主化は強制収容所の廃絶から始まると考えて活動しているNGOであるが、金永煥氏の講演から多くの示唆と励ましを受け、目的達成のために邁進したいと思う。2回の講演を通訳された当会の副代表の宋允復氏にもお礼を申し上げたい。

なお、10月末に『韓国民主化から北朝鮮民主化へ——ある韓国人革命家の告白』という金永煥氏の本が新幹社から出版されている（1500円+税）。この機会に購入され、一読されることをお勧めしたい。

金民柱氏追悼

代表 小川晴久

当会顧問の金民柱氏が、去る10月21日、85歳の生涯を閉じられました。1991年『月刊Asahi』11月号で「金日成父子よ、弟を返せ!」という手記を発表して、北朝鮮と朝鮮総連を告発した先駆者であり、1994年2月20日に発足した北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会では共同代表を、2008年4月13日NO FENCEでは顧問を務められました。物静かでしたが、朝鮮総連の妨害者たちには、いつでも「文句があるなら、俺にかかってこい!」と熱血漢ぶりを発揮されました。簡単な略歴ですが、以下に掲げますので、故人を偲んでください。12月14日と15日の東京と大阪での講演会では、先述の歴史的な文書と略歴を参会者にお配りし、金民柱氏の遺志を引き継ぐことを誓いました。謹んで哀悼の意を表します。

追悼 金民柱さん（1932年9月19日～2017年10月21日）享年85

数年前に脳梗塞で倒れられ、闘病中でした。謹んで哀悼の意を捧げます。

略 歴

1932年9月19日 濟州島に生まれる。

1945年12月 大阪から濟州島に帰る。

物一つ持たず「りんごの歌」だけ持って帰る。みんなの前で「りんごの歌」を歌い、りんご少年と言われる（高二三氏談）。

1948年 4.3民衆蜂起に中学生として参加。

1950年6月25日 朝鮮戦争勃発。仁川の少年刑務所に服役中、北朝鮮軍によって解放され、北朝鮮軍の一員となって従軍。捕虜となり巨濟島捕虜収容所に抑留。

1957年12月 来日

1966年 『統一評論』編集部に入る。

1985年 耽羅（たんら、濟州島の古名）研究会立ち上げる。同会会長。

1991年11月 『月刊Asahi』11月号に手記「金日成父子よ、弟を返せ！」を載せ、北朝鮮と総連を告発し、闘いに入る。

1994年2月20日 「北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会」創立に参加。

1995年 同会共同代表。

2008年4月 NO FENCEの創立に参加し、顧問となる。

2017年10月21日 逝去

